

竜王中学校 学校関係者評価書

令和3年1月29日（金）

竜王中学校学校関係者評価委員会作成

令和2年度「学校関係者評価委員会」

実施日：令和3年1月29日（金）午後3時30分～

会 場：竜王中学校会議室

参加者：（学校関係者評価委員） 島田明人 川口優一 中嶋正人 鷹野秀樹
古屋あゆみ 山本志津香 松田由美子
（学校側） 今村弘樹 坂本公彦 林健一郎 岡村勝幸
渡辺浩二 佐野公司 阿部勢津子

I 学校側から提案された内容

- ・令和2年度自己評価書
- ・令和2年度自己評価シート集計結果表（H30・R1と比較できるもの）
- ・令和2年度生徒用アンケート集計結果表（H30・R1と比較できるもの）
- ・令和2年度保護者アンケート集計結果表（H30・R1と比較できるもの）

II 協議された主な内容

- ・自己評価シート及び生徒アンケートの集計結果・保護者アンケート集計結果をもとに、学校の現状（成果と課題）や取り組み等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善にあたる。

〈学校関係者評価書〉

I 全体評価

- ・今年度は長期臨時休業があり、学校再開後もコロナ感染症対策の徹底を図りながらの教育活動となった。その状況のなか、今回のアンケート結果は、生徒・保護者・教職員が地域と連携し、組織的・継続的に課題の改善を図ってきた成果を実感できるものとなった。特に、本年度から全校体制で始めた家庭学習の取り組み（スタンバイ学習・ドラスタノート）は、教職員はもちろん、生徒・保護者の意識や取り組みにも変化が出てきていることは大きな成果といえる。今後も、全職員が学校教育目標の具現化に向けて、学校経営方針に基づいて共通認識・共通理解をして教育活動にあたっていきたい。

II 特徴

○自己評価シートの集計結果から

- ・52の評価項目の内、49項目において、肯定的評価〔A（とてもそう思う）＋B（そう思う）〕が80%を超えている。（R1は51項目中、49項目）
- ・最頻値については、全52項目中、Aが26項目であった。（R1と同じ）
- ・否定的評価〔C（ややそう思わない）＋D（そう思わない）〕の割合が比較的高かったもの（20%を超えたもの）は、「II学校運営について」の中の「あなたは校務支援システムを十分

活用できていますか」と「特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている」の2項目であった。(R1は「特別支援教育の体制」と「地域人材や施設の活用」の2項目)

○生徒アンケートの集計結果から

- ・生徒アンケートの結果は昨年度同様、概ね肯定的な回答であった。特に、家庭学習の時間や困ったときに相談できる先生がいるか、国語・数学の授業の理解についての項目が向上している。
- ・創甲斐教育の指標(A+Bの割合、R6目標値)との比較
 - 「人が困っているときは進んで助けていますか。」指標95% 本校94%(前年比±0)
 - 「国語の授業の内容はわかりますか。」指標95% 本校91%(前年比+4)
 - 「数学の授業の内容はわかりますか。」指標90% 本校86%(前年比+2)
 - 「外国語の授業の内容はわかりますか。」指標70% 本校80%(新設問)
 - 「学校以外で目標時間の勉強をしていますか」指標75% 本校66%(前年比+7)
 - 「将来の夢や希望を持っていますか。」指標80% 本校77%(前年比+2)
 - 「学校の決まりや約束ごとを守っていますか。」指標98% 本校98%(前年比±0)

○保護者アンケートの集計結果から

- ・保護者アンケートの結果は昨年度同様、概ね学校の教育活動に対し肯定的であった。
- ・授業参観や学校開放日が中止となり、直接、保護者が生徒の活動をみる機会が少なくなったが、学校ホームページや各種お便りから、学校の教育活動を知ることができたと評価されている。
- ・子どもが、家庭で自主学習をしていると答えた保護者は前年比10%上昇した。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・日頃から先生たちが熱心に指導していることが、評価結果につながっている。特に、相談できる先生がいると答えた生徒の割合が多い事は素晴らしい。先生の指導を生徒がしっかりと受け止めている証拠である。今後も、信頼関係に基づく指導を続けていってほしい。
- ・授業では、生徒同士が助け合い教えあうようなグループ学習が展開されていたり、スタンバイ学習で家庭学習の取り組みを支援していたり、学力向上へ向けて工夫や改善がみられる。すぐに効果は出ないかもしれないが、粘り強く継続した取り組みをしていく必要がある。
- ・コロナ禍の中、今年は特別な1年だった。その中で、先生と生徒が日常生活を取り戻すために努力をしつつ、修学旅行などの校外行事も行うことができたことは、とてもよかった。仲間と楽しく過ごす時間は、大切な経験・思い出になったはずである。これからも、今まで行ってきたことを削ったり圧縮したりせざるを得ないが、生徒達に必要な力をつけるために、工夫しながら教育活動を展開していってほしい。
- ・生徒の様子は、年々良くなっている。特にあいさつは、いつも気持ちの良い挨拶が返ってくる。心を育てる竜王中教育の成果である。今後も継続してほしい。
- ・教職員の心身の健康が、学校教育を支えている。教職員の多忙化改善は、今できることからすぐに取り組んでほしい。

